

令和6年度第2回狹山市廃棄物減量等推進審議会

開催日時 令和7年2月5日（水） 午前10時から午前11時06分

開催場所 奥富環境センター 4階会議室

出席者 成尾委員、小川委員、小暮委員、嶋村委員、増田委員、鍋谷委員、
奥本委員、高橋委員、立川委員、鈴木委員、田中委員、大澤委員、
川内委員 以上 13名

欠席者 岡村委員、阿部委員

事務局 神田環境経済部長、當麻資源循環推進課長、小巖奥富環境センター所長、
青柳奥富環境センター副所長、山崎稻荷山環境センター副所長、
資源循環推進課木村主査、寺原主任

傍聴者 なし

1 開 会

2 あいさつ 小川会長

3. 議 題

（1）令和7年度狹山市一般廃棄物処理実施計画（案）について

事務局より、計画の目的、排出量の見込み、収集運搬、処理施設、排出抑制・
減量化・資源化計画等について説明した。

4. その他

（2）小型電化製品の収集方法の変更について

事務局より、令和7年4月1日から小型電化製品の収集日と収集方法等の変更点
について説明した。

〔質疑応答〕

委 員 実施計画を策定する際の根拠となっている、世帯数、人口、事業所数のそれぞれ令
和6年の実績と7年の予定数を教えてください。

事務局 実績としては、令和6年4月1日現在の人口は148,466人、世帯数は72,364世帯

となっております。市としては、令和7年4月1日の人口について公式に公表しておりませんが、これまでの人口の減少傾向、世帯数の変動などを勘案して計画数量を算出しております。また、事業所数については、正確な数は把握しておりませんが法人市民税などの税関係のデータである程度の数はわかりますが、全てを反映しているものではなく、あくまでも参考として捉えております。事業所のごみの量についても、過去の実績を参考に算出しており、事業所数で計算しているものではありません。

委員 前回の会議で意見として申し上げましたが、廃棄物の性質として、母数の事業所が増えればごみの量も増えるし、人口が増えればごみも増えるということです。人口が増えることは市にとっても良いことで、事業所が増えて経済が活性化すれば廃棄物も増えるということになると思います。そのあたりをある程度考慮して計画を立てていかなければならないと思います。実績ベースでごみを減らす必要があるという議論をしても実態がないように感じております。やはり世帯数や人口、事業所数の増減を考慮して計画を立てる必要があると考えますが、どのように考えていますか。

事務局 人口、世帯数については、これまでの減少傾向の比例計算等である程度の予測的なものは出せますが、事業所については、景気の動向等に左右されますので、一概に減少傾向だからごみも減少するとはいいいがたいと思います。第1回の審議会ですぐにご意見については承知しており、事業所数については、どのように把握できるか検討しましたが、法人市民税等の税関係の事業所数はわかりますが、税以外のことに使ってはいけないデータもあり、全てのデータを使うことは難しい状況となっております。また、従業員数もごみの排出量を試算する際の決め手になりますが、税の申告の際の算出方法での人数となっており、個人事業主の場合は、市で数は把握できない状況となっており、従業員1人あたりのごみの量を算出するのは難しいと考えておりますが、今後は、事業所数も参考にして算出することも検討したいと考えております。今回の実施計画は、ごみの総量として提示して公表するものですが、今後は実施計画とは別に参考として、一事業所あたりの数値を指標に加えるなど、今後検討していかなければならない課題であると捉えております。

事務局 今の質問に関連して説明させていただきますが、考え方として稲荷山環境センターについては、令和11年度から3ヶ年かけて大規模な改修工事を行う計画を立てております。計画を立てるにあたり、1日あたりのもやすごみの量を算出し、処理できる量を推計しております。推計する際には、これまでのもやすごみの量のトレンドを踏まえ算出しております。また、数年前に企画部門で第4次総合計画を策定する際に推計した狭山市の人口推計値を基に今後のごみの量を推計しております。稲荷山環境センターの更新にあたっては、1日あたりのもやすごみの量を推計して整備計画を立てており、具体的な工事内容についても、基本設計、実施設計を作っている予定でおります。

委員 様々なことを捉えながら、配慮も含めて計画を立てて大変なことだと思っておりますが、これがないから駄目という訳ではありませんが、私達はこの廃棄物減量等推進審議会でごみを減らすことが正義というようなところで思考を停止してしまう

のは、少し問題ではないかと思っております。事業所については経済が活発になれば当然事業所数は増えて事業系ごみも増えることになり、数量だけをみて事業系のごみを減らしましょう、というのは少し短絡的な考えではないかと思えます。ごみの処理については、都市計画と一体的に考えていくことが必要で、例えば都市計画を考えるうえで人口を増やすのであれば、当然ごみも増えていくのでそこを踏まえていく必要があります、どこまで減らすことができるのかということをしっかり定めた中で、減量計画を考えなければならないと思います。いたずらに発生量だけをみて、増えているものを減らせてというのは、政策として実体がないものになってしまうと思います。減らせばよい、という考えから一度脱却して、違う視点を私達自身や市民が持っていくということで減量計画、データや考え方を示していく必要もあると思っております。

委 員 年間の計画の資源ごみについて、古紙、ビン、缶、ペットボトル、プラスチックの計画量が減少しておりますが、リサイクルを普及することによってこれらの量が増えることを加味した計画量なのでしょうか。それとも全く加味せず実績値や人口、世帯数の推移などからの計画量なのか、教えてください。

事務局 これまでの実績が中心になっておりますが、例えば古紙、古布については古紙自体社会的にペーパーレス化が進んだことにより、総量が大幅に減少しておりますのでそのような様々な状況も加味したうえで計画した数量となっております。また、人口が減少傾向にあることから集団回収事業に参加してくださる方の数も減ってきております。これらの減少状況を様々な施策で緩やかにしたいと考え取り組んでおりますが、相対的に検証して計画量をお示ししております。

事務局 本日お示しした実施計画（案）については、令和7年度予算が市議会で可決されないと実施できませんので、予算が可決後に（案）と下段にある昨年度の数値を消して4月1日付けで公表させていただきます。

委 員 16 ページ、第3節の2、ごみの発生抑制の一番上の「ノーレジ袋デーの拡充」については、2001年の11月に「ノーレジ袋デー」を狭山市が市として提唱したということがあり、「ノーレジ袋デー」という名称がずっと続いていると思いますが、昨日調べたところ既にマイバックの持参率が、昨年度はコンビニ等除いて80パーセントを超えていると思います。持参率が80パーセント以上となっている現状で、「ノーレジ袋デー」という言葉がこのまま使われていくのは、どうなのかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

事務局 マイバックは、かなり普及していると認識しております。ここに記載しているマイバック持参率調査は、毎年市内の大型スーパーに出向き調査をさせていただいているものです。この調査結果も80パーセントを超えている状況となっており、事務局内でもこの名称が今の時代にあっているのか、という議論はありました。この名称で2001年から取り組みはじめた時は、近隣自治体と比べて、かなり早い取り組みでした。このような経緯から続いている名称を変えることに少し躊躇する部分もあり、今回は同じ名称で記載しております。今後は昨今の事情を踏まえて施策の内容を検討してまいります。

委員 今の 16 ページの「ノーレジ袋デーの拡充」について、数年前からレジ袋が有料となり、レジ袋を貰わないようにしても少人数の世帯だとスーパーで使用しているものと同じような小さい袋を購入しています。ノーレジ袋デーを推奨することでごみの減量化にどの程度効果があったのか教えてください。

事務局 レジ袋は必要な方については、有料で購入できますが、今までレジ袋をごみ袋として使用していたということだと思います。それが例えばマイバックを使用することでごみ袋用の袋を新たに購入するということも確かにあるかもしれませんが、買い物に来てマイバックを持っているからレジ袋は必要ない、必要のないものは受け取らない、という意識づけの効果はあると思います。効果については、具体的なデータはありませんが、市民全体でこのような啓発的な取り組みを長年続けることで、不要なものは受け取らない、過剰包装にならないようにするなどの意識づけとして効果があると認識しております。

委員 他の自治体では 45 リットルのごみ袋が有料となっている自治体もありますが、狭山市は無料なので、高齢者の方、特に独居の方は無料ということに慣れており、ごみ袋を買うことに抵抗があるということを伝えたく質問しました。

委員 ノーレジ袋デーは意識づけで効果があるとのことですが、実際にはほとんどのスーパーやドラッグストアでもレジ袋は有料になっています。有料なので仕方なくマイバックを持参する方が多いと思いますが、一部のスーパーは、自分から断らなければ、自動的にレジ袋をつけてくださるので、私も受取りごみ袋として有効利用させてもらっております。なぜ無料で渡してくれるのか疑問に思っておりますが、状況を把握されているのでしょうか。また、以前、ごみの有料化について検討していないのでしょうか、と質問した時に近隣の状況を見て検討するというような回答だったと思いますが、もはや近隣といわず、どこでもごみの有料化は進んでおります。稲荷山環境センターを新しく建設する場合、かなり費用がかかるのでそういったことも踏まえて有料化について考えているのか伺いたいです。

事務局 マイバック持参率調査などで市内のスーパーにご協力いただいております、無料でレジ袋を渡すスーパーについては、認識しており、店舗に確認したところ環境に優しい素材のレジ袋であるときいております。会社の考え方として、環境に有害とならないレジ袋を提供し続けている、ということです。

次にごみの有料化につきましては、県内では五つの自治体及び組合が有料化しております。ただ、埼玉県西部地区、近隣自治体では有料化はまだ実施していない状況となっております。ごみは自区内処理が原則と先ほどの実施計画案の説明の中で申し上げましたが、例えば一市だけが有料化すると近隣の自治体にごみが出されてしまい近隣自治体のごみが増えてしまうということが懸念され、有料化するのであれば、近隣の地域で一緒にはじめることを検討しなければならないと考えております。狭山市では、ごみの減量化に皆さんかなり一生懸命取り組んでいただいております。今すぐ有料化して減量を図っていかなければならないというほどの喫緊性は今のところはないと認識しており、現段階では当面、有料化については考えておりませんが、県外も含めて近隣の動向を注視してまいります。

4 そ の 他

事務局より、小型電化製品の収集方法の変更及び布団・絨毯の持ち込み先について説明した。

〔質疑応答〕

委 員 どのようなものが小型家電になるのかということも含めて広報紙やごみ分別アプリに掲載されるのでしょうか。

事務局 広報紙、ごみ分別アプリでお知らせする予定です。小型電化製品ということにくっってしまうと、扇風機、電子レンジ等も該当しますが、現在「もやさないごみ」の小型電化製品として分類している粗大ゴミに該当しないものを、4月からは別袋に入れて「びん・缶・乾電池」の日に出してください、というものです。集積所に出せるサイズの電化製品で30センチを超えると、粗大ゴミとなり集積所には出せませんので、30センチを超えないものと考えていただければと思います。

6 閉 会

配付資料

- ・令和7年度第1回狭山市廃棄物減量等推進審議会 次第
- ・資料1 令和7年度狭山市一般廃棄物処理実施計画（案）
- ・狭山市廃棄物減量等推進審議会席次表